

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 36人 |
| ② 算数 | 36人 |
| ③ 理科 | 36人 |

5 留意事項

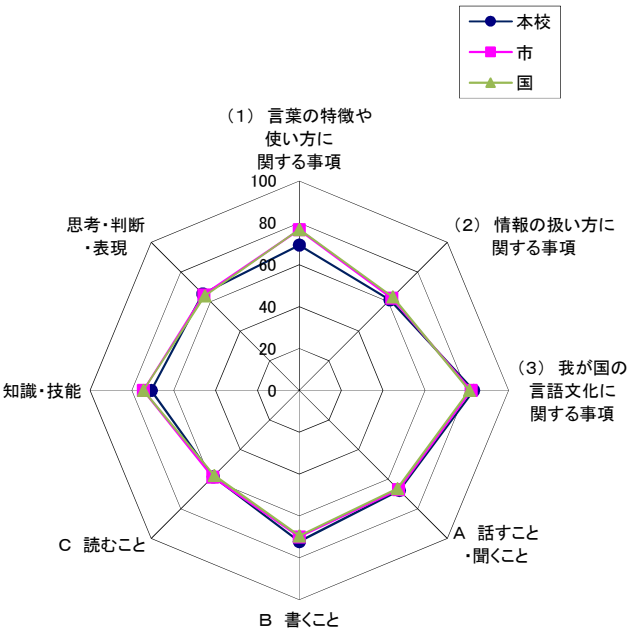
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	67.6	67.0	66.3
	B 書くこと	72.2	70.0	69.5
	C 読むこと	58.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	70.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	65.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

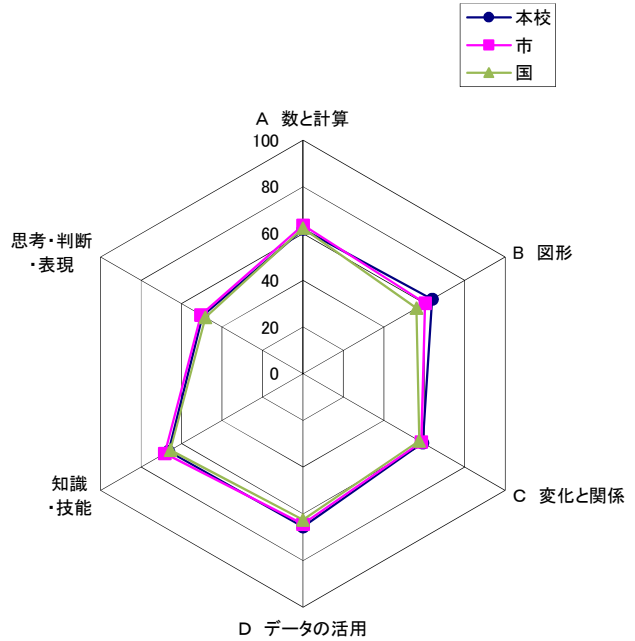
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均より低い。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題の1問目の正答率は83.3%で、全国平均を1.7ポイント上回っている。 ●漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題の2問目の正答率は55.6%で、全国平均を16.5ポイント下回っている。	・熟語の意味や用法を確認しながら漢字の学習を進めるなどして、文の中で正しく漢字を使うことができるようにする。 ・日頃から様々な種類の多くの文章に触れる機会を多くもたせ、漢字の特徴を正しく捉える活動を取り入れていく。 ・読書の奨励、言葉の特徴や使い方に関する課題内容の工夫などにより、語彙力を高めていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、全国平均より低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを問う問題の正答率は、全国平均よりも2ポイント下回った。	・様々な資料から必要な情報を選択し、適切に活用する学習活動を多く取り入れ、情報を整理、分析する力を高めていく。 ・原因と結果を表す短文作りを通して、情報と情報の関係付けの仕方を確実に理解することができるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均より高い。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかを問う問題で、全国平均を上回った。	・昔の教科書や雑誌を読んだり、言葉の変化を比較する表や年表を作ったりして、視覚的に言葉の変化を捉えられるようにする。 ・昔を舞台にした物語を読んだり、マンガやアニメを活用したりして、言葉に触れる機会を意図的に取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えられているかどうかをみる問題の正答率は、全国平均を3.2ポイント上回った。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題は、全国平均より1.5ポイント下回っている。	・目的意識をもたせる問いかけをしたり、聞く目的と質問をセットで考えたりするなど、「意図」を明確にする授業を取り入れていく。 ・聞き手と話し手の役割を交代したり、話し手と自分の考えを比較したりする、「対話」を繰り返す活動に取り組むようにする。 ・話を聞く前に、まず自分の考えを整理させ、「なぜそう思うのか」を明確にさせる授業を取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均より高い。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる正答率は91.7%で全国平均より9.9ポイント上回った。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題は、全国平均より11.3ポイント下回った。	・様々な図表の目的を紹介したり、図表作成の練習をしたりして、図表の「型」を学ぶ活動を取り入れていく。 ・「なぜ図表を使うのか」を考えさせ、書き終わった文章を、読み手に説明する活動を取り入れ、「書き手」から「読み手」の視点を考えられるような授業に取り組んでいく。 ・「誰に、何のために書くのか」を常に意識させながら作文指導を行ったり、目的ごとの文章の「型」を学習したりする活動を取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりやや高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均より9.2ポイント上回った。 ●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均より6.6ポイント下回った。	・今後ただ文章や図表を読ませるだけでなく、「何を知りたいか」という目的意識を明確にし、教科書の中の限られた資料だけでなく、複数の文章や図表から考える機会を増やす。 ・どのように文章と図表を結び付ければよいか、具体的な手順を指導し、「正解かどうか」だけでなく、「どのようにしてその答えにたどり着いたか」を共有する時間を設ける。 ・「起承転結」や「序論・本論・結論」といった文章の構造を意識させ、文の要旨を捉える活動を丁寧に取り組むようにする。

宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.8	63.6	62.3
	B 図形	63.9	60.4	56.2
	C 測定	55.6	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.3	58.6	57.5
	D データの活用	65.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	66.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	49.6	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

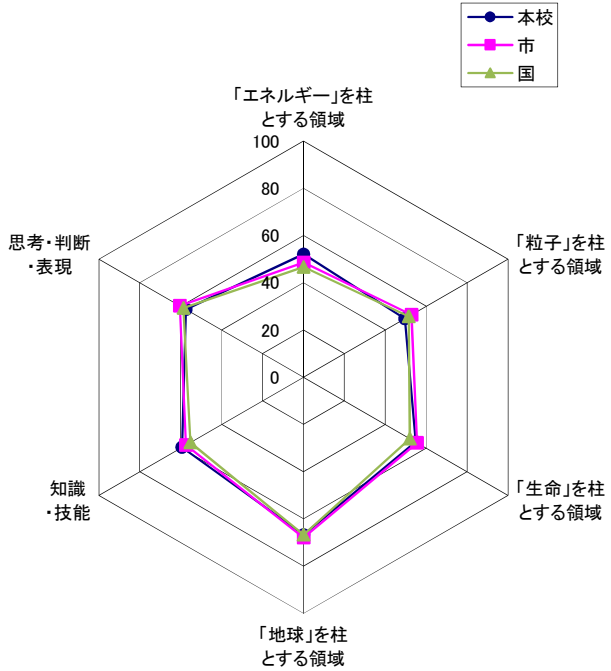
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均より低い。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均より7.4ポイント上回った。 ●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均より8.1ポイント下回った。	・他の領域や他の教科と関連させた問題を取り上げたり、日常生活に生かすことのできる活動を行ったりすることで、知識として身に付いたことを活用する力を伸ばせるようにする。 ・分数の意味を理解させた上で、異分母の加法や減法の計算方法を説明する活動に充分に取り組ませる。また、既習内容の復習を繰り返し行い、基礎・基本の確実な定着を図ることができるようにする。
B 図形	平均正答率は、全国平均より高い。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題は、全国平均より16.5ポイント上回った。 ●基本図形に分解することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、全国平均を上回っているものの、正答率は4割に満たなかった。	・今後も図形を構成する要素に着目して図形の特徴や性質を比較しながら捉えられるようにし、様々な見方や表現方法があることに気付かせていく。 ・図形の見方や考え方を深めるために、図を分解する操作や面積の求め方を説明する学び合いの機会を増やしていく。
C 測定	平均正答率は、全国平均より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題で、全国の平均より9.6ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、全国の平均より8.1ポイント下回った。	・今後も身近な事象や他の教科と関連する問題を取り上げたり、算数的活動を取り入れたりして、応用的な問題にも対応することができるようにする。 ・数直線のめもりを読んだり、実際にものの長さや重さなどを測ったりする活動をする際に、めもりの最小単位に目を向けるようにし、測定で身に付けた知識を活用することができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均より高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる問題では、正答率が全国より低いものの、8割を上回っている。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均を2.0ポイント下回った。	・与えられた数量から答えを導き出す基本的な思考は身に付いていることから、今後は、伴って変わる二つの数量から問題を解決するために必要な事柄を見出す活動を大切にする授業を展開していきたい。 ・割合や「10%増量」の意味の理解を十分にするために、様々な場面や状況での問題文に多く触れ、与えられた情報から基準量と比較量を正確に読み取り、割合を求めることができるようにする。
D データの活用	平均正答率は、全国平均より高い。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、全国平均を7.9ポイント上回った。 ●簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題では、全国平均を7.7ポイント下回った。	・今後も児童の身の回りの事象から問題を設定し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行う活動を充実させていく。自分事として問題を解決したり、解決の過程や結果を考察したりすることで、データを活用する力を養っていく。 ・他の領域や他の教科と関連させ、様々なグラフを読み取る活動を取り入れる。グラフから読み取れる事象について、グループで共有し合い、多面的な見方があることに気付かせるとともに、目的意識をもって取り組めるようにする。

宇都宮市立海道小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	54.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	57.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より5.4ポイント高い。 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、全国平均を10ポイント以上上回っており、9割に近い。 ●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、全国平均を10ポイント以上上回っているが、本校の正答率が22.2%と低く留まっている。	・電流の基礎となる内容の確実な定着を図るため、実験する時間を十分に確保し、操作を通して体験的に理解できるような学習展開に努めた成果が表れているものと考えられる。今後も実験に十分な時間を掛けていきたい。 ・身の回りの金属について、電気を通す物と磁石に引き付けられる物を混同して解答している様子がある。実験を通して得た基礎的な知識を児童の言葉でまとめたり、友達と交流したりする活動を取り入れて確実に定着するようにしていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より1.9ポイント低い。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題では、全国平均と同程度であった。 ●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題では、全国平均より大きく下回った。	・温度による水の状態の変化について、問題の把握や予想・仮説、結果の整理、考察などの学習活動を計画的に設定した効果が表れていると考えられる。今後も丁寧な学習展開を心掛けていきたい。 ・理科で学習したことが世の中の事象と結び付けて考えることに不慣れな様子がある。学習過程のまとめの段階で、学んだことが身の回りでも適用されないか確認するような活動を取り入れることで、学習したことと生活や世の中の事象との結び付きを感じることができる学習を展開していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より2.9ポイント高い。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題では、全国平均を4.4ポイント上回った。 ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題では、全国平均を3.4ポイント上回っているが、本校の正答率が33.3%に留まっている。	・実際に顕微鏡を操作し、試したり言葉でまとめたりして知識を着実なものにする学習展開を取り入れた効果があつたと考えられる。今後も、体験を通して学ぶ機会を大切にしていきたい。 ・新たな問題を見だす活動の展開が十分でなかったと考えられる。学習活動の結果の整理、考察の際に差異点や共通点に着目させ、新たな問題を見だす活動を随時取り入れ、学習を深めていきたい。また、記述式の解答を求められているところを短答している児童が多いため、普段から自らの言葉で表現する活動も取り入れていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均と同じ。 ○氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を14.1ポイントと大きく上回った。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題では、全国平均より5.6ポイント下回った。	・理科で実験を通した学習の成果がよく表れているものと考えられる。今後も、得た知識を使って身の回りの事象を考えるような授業展開をしていきたい。 ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、他の条件での結果を予想することには正答しているが、理由の選択に誤りが多く見られた。これは、比較する対象が複数あることで正確に表現できなかったものと考えられる。今後は、結果だけに着目するのではなく、自らの言葉で理由を述べたり、複数の対象と比較して正確に述べたりする学習を、理科に限らず展開するようにしていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることはありますか」の肯定的回答の割合が、どちらも県及び全国の割合を上回った。引き続き、社会科や総合的な学習の時間、学校行事等を中心に、地域の方と連携しながら地域について知ったり理解を深めたりすることができる活動を行っていく。

○「本は好きですか」の肯定的回答の割合が、どちらも県及び全国の割合を5ポイント以上上回った。これは学校図書館司書と連携した様々な取り組みの成果が現れていると考えられ、今後も、朝の読書の時間の確保や図書室の利用を推奨していく。

○「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか」、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ができると思えますか」、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか」の肯定的回答の割合が、県及び全国の割合を上回った。これは、日々の授業において1人1台端末を効果的に活用した成果と考えられ、引き続き、あらゆる授業で1人1台端末を効果的に活用していく。

●「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の肯定的回答の割合が89.5%であったのに対し、「算数の勉強は好きですか。」の肯定的回答の割合が44.8%であり、県及び全国の割合を10ポイント以上下回った。單元ごとに理解度を把握し、児童の実態に合わせた授業づくりの工夫をすることで、算数に対する興味関心を高めしていく。

●「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答の割合が92.1%であったのに対し、「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答の割合が73.7%であり、県及び全国の割合を10ポイント以上下回った。児童一人一人のがんばりやよさの見取りと共有、活躍の場の積極的な設定を行い、児童の自己有用感の向上を図っていく。

宇都宮市立海道小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えがもてるような学習活動の設定	・学習活動の中で、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動の設定	児童質問調査の「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的回答は、国を下回った。
相手意識をもち、自分の考えを伝えたり、聞いたりする学習活動の工夫	・相手意識をもった「聞き方・話し方」の実践 ・自分の考えをもつための工夫	国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、県の平均正答率よりやや高い。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	・自らの成長に目を向ける自己評価の実施 ・単元や内容のまとまりでの見通す・振り返る活動の重視	児童質問調査の「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」の肯定的回答は、国を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「読むこと」の領域において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力は、国の正答率を下回り、課題が見られる。	読む力を高めるために、語彙力を高める指導を中心に、各教科や領域で言語活動の充実を図る。	・読書活動の充実 ・学習活動の中で、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動の設定 ・学年ごとに身に付けさせたい力を明確にし、国語科を中心にした言語活動の充実と、自分の考えをもつための考える時間の十分な確保